

1. 略歴

1991年3月	東京大学文学部第四類心理学専修課程 卒業
1991年4月	東京大学大学院人文科学研究科心理学修士課程 進学
1993年3月	東京大学大学院人文科学研究科心理学修士課程 修了
1993年4月	東京大学大学院人文科学研究科心理学博士課程 進学
1996年3月	東京大学大学院人文社会系研究科心理学博士課程 修了 博士(心理学)取得
1996年4月	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 研究員 (COE ポスドク)
1997年4月	岡崎国立共同研究機構生理学研究所 研究員 (日本学術振興会特別研究員 PD)
1997年9月	米国ハーバード大学心理学部視覚科学研究所 研究員 (日本学術振興会特別研究員 PD)
1999年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 社員
2000年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 研究主任
2004年4月	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員
2005年4月	東京大学大学院総合文化研究科 助教授
2007年4月	東京大学大学院総合文化研究科 准教授
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

知覚心理学、認知神経科学

b 研究課題

こころの時間長・同期・クロックを作り出す認知メカニズムの解明。視空間的な注意機能と認知発達、錯視の多面的研究—実験心理学・脳機能画像・数理解析・生物学的手法を用いて—。

c 概要と自己評価

知覚世界のどんなオブジェクトが他の何と比べていつ・どこにあるように思えるのか、という中で「いつ」に対応する、非常に基本的な視覚体験であるにもかかわらず、対象の「主観的現在」の心的・脳内表現や処理過程については未解明である。そこで、「こころの時間」の神経基盤解明の目標として、数秒以内の範囲をもつ「主観的現在」の心的表象と神経機構に関し、ヒトを対象とした知覚実験と非侵襲脳計測・刺激法で、視覚系を軸に置いた「主観的現在」の心的持続時間がどこでどうやって決まっているのか、感覚モダリティ内外で決まる知覚的時刻・時間軸同期はどのようになされるのか、心的時間を刻むクロックはどのような心的プロセスと相互影響し合うか、の原理を解明する。認知発達の研究では、心の理論、実行機能、見かけと実際の区別、記憶のされ方など、広範囲の認知能力が問題とされる。そこで、注意の範囲や向け方が視空間的課題遂行時にどのように変化するのかを調べるため、成人を対象に検討する。近年錯視研究は急速な進歩を遂げており、錯視は珍しい現象というわけではなくなりつつある。それどころか、錯視のいくつかは恒常性、運動視、色覚、立体知覚など機能的なメカニズムそのものであったり、その不可避的な誤動作であることが明らかになり、錯視は「普通の視覚のメカニズム」を明らかにする重要なツールとなりつつある。そこで、これまで得られた豊富な成果を基礎としてさらに錯視研究を発展・深化させることによって、錯視研究の成果が視覚のメカニズムの解明に直結する時代を先取りすることを目的とする。時間知覚研究、注意研究、錯視研究のいずれに関しても、高インパクトの国際専門誌への掲載などをはじめ順調な研究成果の出力をしており、おおむね順調に進展している。

d 主要業績

(1) 著書

共著、村上郁也、「VR/AR技術の開発動向と最新応用事例」第2章「ヒトの知覚特性とVRへの応用技術」第1節「錯覚からわかるヒト視覚情報処理メカニズム」、技術情報協会、2018.2

共著、村上郁也、「公認心理師の基礎と実践 2 心理学概論」第3章「感覚・知覚」、遠見書房、2018.3

(2) 論文

Osugi, T., Hayashi, D., & Murakami, I., 「Selection of new objects by onset capture and visual marking」、『Vision Research』、122、21-33 頁、2016.5

- Murai, Y. & Murakami, I., 「The flash-lag effect and the flash-drag effect in the same display」, 『Journal of Vision』, 16(11):31, 1-14 頁, 2016.9
- Hisakata, R., Hayashi, D., & Murakami, I., 「Motion-induced position shift in stereoscopic and dichoptic viewing」, 『Journal of Vision』, 16(13):3, 1-13 頁, 2016.10
- Aoki, S., Kawano, A., Terao, M., & Murakami, I., 「Time dilation in a perceptually jittering dot pattern」, 『Journal of Vision』, 16(14):2, 1-12 頁, 2016.11
- Osugi, T., Takeda, Y., & Murakami, I., 「Inhibition of return shortens perceived duration of a brief visual event」, 『Vision Research』, 128, 39-44 頁, 2016.11
- Yamauchi, K., Osugi, T., & Murakami, I., 「Attentional capture to a singleton distractor degrades visual marking in visual search」, 『Frontiers in Psychology: Perception Science』, 8(801), 1-8 頁, 2017.5
- Honma, M., Murai, Y., Shima, S., Yotsumoto, Y., Kuroda, T., Futamura, A., Shiromaru, A., Murakami, I., & Kawamura, M., 「Spatial distortion related to time compression during spatiotemporal production in Parkinson's disease」, 『Neuropsychologia』, 102, 61-69 頁, 2017.6
- Osugi, T., & Murakami, I., 「A drastic change in background degrades preview benefit」, 『Frontiers in Psychology: Perception Science』, 8(1252), 1-15 頁, 2017.6
- 村上郁也, 「主観的現在における知覚的持続時間の諸現象」, 『BRAIN and NERVE』, 69(11), 1187-1193 頁, 2017.11

(3) 学会発表

- 国内, 村上郁也, 「固視微動・視野安定・視覚検出感度のメカニズム」, 第2回視覚生理学基礎セミナー, 相模原, 2017.3.12
- 国内, 村上郁也, 「眼に入力された情報を動きに生かす～適切な時空間文脈による視覚機能の向上～」, 第28回東京大学科学技術交流フォーラム, 東京, 2017.11.21

(4) 予稿・会議録

- 国際会議, Osugi, T., Takeda, Y., & Murakami, I., 「Brief visual events look briefer at locations suffering inhibition of return」, Vision Sciences Society, St. Petersburg, Florida, USA, 2016.5.16
- 国際会議, Murakami, I., Aoki, S., Kawano, A., & Terao, M., 「Time dilation in a jittering motion perceived in a stationary stimulus」, Vision Sciences Society, St. Petersburg, Florida, USA, 2016.5.17
- 国際会議, Osugi, T. & Murakami, I., 「Preview benefit survives 3D rotation if the configuration of old items remains constant」, International Congress of Psychology, Yokohama, 2016.7.26
- 国際会議, Inoue, T., Itoi, S., & Murakami, I., 「Perceptual rhythm changes in seeing continuous random dot patterns」, International Congress of Psychology, Yokohama, 2016.7.29
- 国際会議, Murakami, I., & Terao, M., & Osugi, T., 「Utility of prior exposure for perceivers, for searchers, and for researchers」, International Congress of Psychology, Yokohama, 2016.7.29
- 国内会議, 村上郁也・青木竣祐・川野晟聖・寺尾将彦, 「ジッター錯視観察時および固視微動様の揺れ刺激の観察時における時間過大視」, 日本視覚学会, 新潟, 2016.8.17
- 国内会議, 本間元康・村井祐基・島周平・四本裕子・黒田岳志・二村明徳・四郎丸あずさ・村上郁也・河村満, 「老化とパーキンソン病がリアルタイムな時空間処理に与える影響」, 日本神経心理学会, 熊本, 2016.9.16
- 国際会議, Terao, M. & Murakami, I., 「Rapid visual feature integration over space and time in peripheral vision」, Time in Tokyo, Tokyo, 2016.10.11
- 国際会議, Osugi, T., Takeda, Y. & Murakami, I., 「Inhibition of return shortens the perceived duration of a brief visual event」, Time in Tokyo, Tokyo, 2016.10.11
- 国内会議, 林大輔・大杉尚之・岩澤広樹・村上郁也, 「運動刺激色への注意が持続時間の知覚に及ぼす影響」, 日本視覚学会, 東京, 2017.1.18
- 国内会議, 井上照沙・糸井章悟・村上郁也, 「運動刺激のコヒーレンスがリズム知覚と持続時間知覚に与える影響」, 日本視覚学会, 東京, 2017.1.19
- 国際会議, Hayashi, D., Iwasawa, H., Osugi, T., & Murakami, I., 「A superposition of moving and static stimuli appears to dilate in time when the moving stimulus is attended to」, Vision Sciences Society, St. Petersburg, Florida, USA, 2017.5.20
- 国際会議, Inoue, T., & Murakami, I., 「Apparent motion of a coherent and continuously moving random-dot pattern appears slower in update rate」, Vision Sciences Society, St. Petersburg, Florida, USA, 2017.5.22
- 国際会議, Saito, M., Miyamoto, K., Uchiyama, Y., & Murakami, I., 「Brightness reduction in parafoveal stimuli in the simultaneous presence of light inside the natural blind spot」, Vision Sciences Society, St. Petersburg, Florida, USA, 2017.5.22

国内会議、齋藤真里菜・宮本健太郎・村上郁也、「Light inside the natural blind spot enhances pupillary light reflex and reduces the brightness of a stimulus outside the blind spot」、日本神経科学大会、横浜、2017.7.20

国際会議、Kaneko, S., Murakami, I., Kuriki, I., & Peterzell, D.、「Individual differences in simultaneous contrast for color and brightness: preliminary small-sample factor analyses reveal separate processes for short and long flashes, different hues and luminance polarities」、European Conference on Visual Perception、Berlin, Germany、2017.8.30

国際会議、Lavrenteva, S., & Murakami, I.、「Ebbinghaus illusion in stimuli defined by second-order information」、International Society for Psychophysics、Fukuoka, Japan、2017.10.23

国際会議、Nakada, H., Hayashi, D., & Murakami, I.、「Perceptual organization from visual positions distorted by motion signals in drifting Gabor patches」、International Society for Psychophysics、Fukuoka, Japan、2017.10.26

国内会議、金子沙永・村上郁也・栗木一郎・Peterzell, D.、「明るさ・色同時対比における個人データの相関パターンに基づく因子分析」、日本基礎心理学会、大阪、2017.12.3

国内会議、林隆介・村上郁也、「方位弁別と顔弁別における情報統合の時間差一タスク難易度の影響の検討」、日本視覚学会、新宿、2018.1.17

国内会議、Lavrenteva, S.・村上郁也、「コントラストと方位で定義された刺激におけるエビングハウス錯視」、日本視覚学会、新宿、2018.1.18

国内会議、仲田穂子・村上郁也、「運動方向の切り替えが視覚探索の探索効率に及ぼす効果」、日本視覚学会、新宿、2018.1.18

(5) 会議主催(チェア他)

国際、「International Congress of Psychology」、その他、Yokohama、2016.7.24~2016.7.29

国内、「日本視覚学会」、チェア、2017.1.18~2017.1.20

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東京女子大学、「知覚心理学B」、2016.9~2017.3

(2) 学会

国内、日本視覚学会、幹事、2016.4~2018.3

国内、日本心理学会、代議員、2016.4~2018.3

国内、日本基礎心理学会、常務理事、2016.4~2018.3

国際、Frontiers in Psychology: Perception Science、Review Editor、2016.4~2018.3

(3) 行政

省庁、日本学術会議、科学技術政策、連携会員、2016.4~2018.3